

第6章

本事業に対する各国首脳等のメッセージ



1 日本

● 安倍晋三内閣総理大臣からのメッセージ

第44回「東南アジア青年の船」事業に参加される各国代表の皆さん、日本へようこそ。心から歓迎いたします。

私は、総理就任以降、皆さんのお国10か国をすべて訪問しました。行く先々で温かくもてなしていただきました。今年、設立50周年を迎えたASEANが、我が国と基本的価値を共有するパートナーとして、地域の安定と繁栄を主導していくことを期待しています。

我が国はASEANとの協力の中で多くを学び、「人を大切に」する」対外協力を創り上げてきました。ASEAN各国の皆様一人一人に豊かになり、幸せになっていただきたい。そのために、共に考え、共に歩みたいと思います。

「東南アジア青年の船」事業は、そうした協力の一つです。我が国とASEANの青年同士の交流に、また人材育成

に、大きな役割を果たしてきました。これまで1万2千人に上る青年が参加し、各分野で活躍しています。

これからの航海において、皆さんは、異なる歴史・文化・価値観を持つ多くの仲間と出会うことでしょう。大いに語り合い、相手の国の素晴らしさを学び、また、自らの生まれ育った国への誇りを育みながら、深い絆を築いていただきたいと思います。

皆さんが、今後、アジア、そして世界の平和と発展のために貢献していくにあたり、船上で得た経験と、育んだ友情が、大きな力となることを願っています。

平成29年10月24日

表敬訪問

内閣総理大臣官邸にて

2 カンボジア

● H.E. Samdech Akka Moha Sena Padei Techo Hun Senカンボジア王国首相からのメッセージ

カンボジア王国の政府及び国民を代表して、第44回「東南アジア青年の船」事業参加の皆様を歓迎いたします。

今年度事業のカンボジアのナショナルリーダー及び28名の参加青年に、私は事業開始前に会いました。この大規模な青年国際交流事業へ参加する、彼ら若いリーダーたちに会って話をする事は、2000年から続くカンボジアの慣例となっています。私は、特に、この事業を開始した日本の首脳陣には先見の明があったと、高く評価されるべきだと思います。40年以上前、日本は、将来を見据えた展望の下、「東南アジア青年の船」事業を開始しました。そして今日まで、この事業は充実した内容を継続しています。

ここで少しASEANの歴史を振り返ってみましょう。以前、東南アジアの国々は、2つないしそれ以上の屋根の下にあったと言うことができます。一つは、ASEAN原加盟5か国、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ。もう一つは、カンボジア、ラオス、ベトナムを含むインドシナ。ブルネイはまだ当時独立しておらず、ミャンマーはどちらにも属していませんでした。東南アジアの国々の間には対立がありました。1980年代に入ると、我々は対立しつつも友好関係を築こうと考えるようになりました。カンボジアもその動きの中にあり、カンボジア内戦が東南アジア最後の戦場となりました。今では、ASEANは一つの屋根の下にあると言えます。私は、ASEANを設立した先駆者達の洞察力に感謝の念を持っています。当時の首脳陣は、現在誰も生存してはいませんが、彼らの明確な、調和を目指したビジョンは健在です。

カンボジアは、このプロセスの一部です。もちろん、カンボジアは国内問題を抱えていたため、ASEANにとっては最も新しい加盟国です。それにもかかわらず、カンボジアは光栄にも、ASEAN首脳会議を2002年及び2012年に開催し、2022年に再び開催することが決まっています。

私は現代に生きる青年を非常に誇りに思います。皆さんがより多くの機会に恵まれていることは間違いありません。私は常に、世界各国の首脳達に、現代の若者は非常に多くの機会に恵まれていると話しています。私が18歳のとき、カンボジアは内戦中でした。私たちは学校に行くことができず、軍隊に入らねばなりませんでした。カンボジアのつらい時代でした。この状況は、カンボジアの青年に限ったことではなく、ラオスやベトナム、そ

れ以外の国の青年にも当てはまることでした。このつらく悲惨な歴史を経て、私達は国を解放し安定した国家を作るべく立ち上がったのです。

皆さんがここに到着し、今日のカンボジアを見て、皆さんは素晴らしいと感じるかもしれません。このように安定した状況を見て、カンボジアが経験してきたことを忘れてしまうかもしれません。しかし、38年前、ここには誰も住んでおらず、学校も通貨もありませんでした。

私自身の悲しい話をさせてください。何年も前の今日、カンボジアの暗黒時代に起きた話です。これ話をするとき、私はいつも涙を流してしまいます。これはカンボジアとこの国の首相に起こった本当の話です。何年も前の今日、私の息子が悲惨な死を遂げました。私は自分の息子を埋葬することすらできず、さらに妻の世話をすることさえ許されませんでした。この話をするとき、私はいつも涙を止めることができません。今日のカンボジアの生活は、クメール・ルージュの大量虐殺政権の強烈な影響を受けていますが、それにもかかわらず、我々は努力してこの国を今日のような状態に立て直しました。

ASEAN各国からの優秀な青年リーダーの皆さんを前に、カンボジアをASEAN加盟に導いた要因を簡単にお話します。4つの要因があります。

1つ目は不干渉の原理です。これは、カンボジアやその他ASEAN各国にとって非常に大切なことです。

2つ目はコミュニティの精神と合意形成です。これは必須の要因です。これにより、我々は他の地域コミュニティとは異なる形で、平等に参加することができます。人口最多のインドネシアが大きな力を持つだけでなく、また、最も裕福なシンガポールが大きな力を持つだけでなく、全ての国が平等の力を持つのです。このことを共有させてください。皆さんが自国のリーダーとなったら、合意形成をやめて多数決に移行することは賢い選択ではない、ということ覚えておいてください。もし合意形成をやめて多数決で物事を決めたら、ASEANは崩壊します。セブで採択されたASEAN憲章において、ASEANの意思決定は「合意形成」の原則に従う、とされていることを思い起こしてください。この原則のおかげで、我々は平等であり公平であるからこそ、ASEANの統一性を維持することができるかと強く感じています。

3つ目は社会経済の発展です。ASEAN原加盟国と新規加盟国のギャップを埋めるため、シンガポール主導でASEAN統合に向けて動き出しました。これにより、カンボジアのようなASEAN新規加盟国も大いに助けられています。

4つ目はASEANがカンボジアにとっての外交上の入

り口だということです。ASEANのパートナーは、EUなど多岐に渡ります。そのため、一たびASEAN加盟国となると、ASEANのパートナーとも関係を築けていけるのです。ASEAN各国では、インドネシアだけがG20のメンバーです。しかし、G20の会合において、ASEAN各国首脳も光栄にもゲストとしてG20に出席することができます。更に、初めてベトナムがASEAN-APEC対話を主導しています。これにより、カンボジア、ミャンマー、ラオスといったAPECに参加していない国々も利益を得ることができます。この素晴らしい機会に、私は、カンボジアにもAPEC参加の機会を与えてもらえるよう要請しようと考えています。

ASEANだけでなく、日本も非常に多くのサポートをしています。日本・メコン地域諸国首脳会議が、2015年に日本で開催されました。今年はマニラで日本・メコン地域諸国首脳会議が開催されます。これはカンボジア、

ミャンマー、ベトナム、タイにとって大きな機会です。

お話したように我々は貧しかったのです。クメール・ルージュ後の数年間は、給与を現金でもらうことはできず、10キロの米や7キロのとうもろこしが給与でした。しかし今、カンボジアは下位中所得国となりました。2030年には上位中所得国となるべく幅広い分野で努力を重ねています。日本を訪れたとき、安倍晋三内閣総理大臣は、このようなカンボジアの努力を支えると約束してくれました。

終わりに、日本とASEAN各国の政府に感謝を表し、皆さんのこの事業での御多幸と御成功をお祈りします。ASEANと日本の絆が末永く続いていきますように。

平成29年11月10日

表敬訪問
首相府ピースパレスにて

3 タイ

● Pol. Gen. Adul Sangsingkeo 社会開発・人間安全保障大臣からのメッセージ

タイ王国政府と国民を代表し、今日ここに第44回「東南アジア青年の船」事業の管理官、日本とASEAN各国のナショナル・リーダー、ユース・リーダー、アシスタント・ユース・リーダーの皆様を心から歓迎いたします。

今年、第44回事業を迎えると同時に、日タイ修好130年とASEAN設立50周年を迎える幸運に恵まれました。地域化（リージョナリゼーション）は、協力と相互依存以上のものを必要とします。それは異なった文化的、社会的そして政治的背景を持つ人々に対するより深い理解と尊敬を要します。私は、日本とASEANによる52日間のこの事業は、集団活動を通じて若きリーダー達の間により深い理解を促進する、価値ある試みであると確信しています。今年の「東南アジア青年の船」事業に参加している青年リーダーの皆さん、これは「一生に一度」

の経験です。皆さんがこの特別な機会を十分にいかし、その恩恵を手に入れ、自分の心と新しい視野を広げてほしいと思います。それはあなた方の未来の成功、あなた方の国を発展させるための財産となることでしょう。この事業で皆さんが出会った人々は一生の友、又は将来のパートナーとなるでしょう。ですから、皆さんにはこの経験を大切にして、将来の自分ばかりでなく皆さんの国や地域にとって役に立つよう、育んだネットワークを保ち続けてもらいたいのです。

関係政府、特に日本政府には、この有益な事業への継続的な支援に対し心から御礼を申し上げます。

最後に、再度皆さんのタイ王国での滞在が素晴らしく、思い出深いものとなりますようこの旅の成功を祈念いたします。

平成29年11月16日

表敬訪問
タイ王国海軍コンベンションホールにて

4 ラオス

● H.E. Mr. Thongloun Sisoulithラオス人民民主共和国首相からのメッセージ

ラオス人民民主共和国政府を代表し、日本政府内閣府及び第44回「東南アジア青年の船」事業の代表青年の皆様を歓迎いたします。この公式訪問は、ラオス全土の多様な民族の青年達の最高機関である、ラオス青年同盟により受入れさせていただきます。皆様の訪問された2017年は、ASEAN設立50周年の歴史的な年であり、また、ASEANと日本の関係開始から44周年を迎えます。

ASEANと日本は、1973年の関係開始以来、様々な分野、特に、貿易と投資、人材開発と社会文化交流において包括的に協力を進めてきました。この関係について、2017年11月13日にフィリピン・マニラで開催された、第20回「日ASEAN首脳会議」についてお話いたします。ASEAN各国と日本の首脳陣は、未来への協力の基盤強化のために、ASEANと日本の心と心のパートナーシップの重要性を強調しました。それは、特にスポーツや文化交流分野の共同事業への青年の参加といった、人のつながりの促進を通じて実現されるものであり、その意味で、「東南アジア青年の船」事業は継続して支援・

実施されるべきです。ASEANの青年達はASEANの持続的発展の要であり、ASEAN地域の未来であります。それゆえに、ASEAN青年育成計画及び事業は協力的に幅広く強調されるべきです。

私自身、ASEANと日本の将来の更なる協力支援に向けて、SSEAYPがASEANの青年達に、意見交換や文化伝統交流、そして相互理解と友情を促進する大変有効な機会を提供していると、高く評価しています。ですから、この価値ある機会を全参加青年が有効に利用することが必須です。これに関して、私は、この有意義な事業を主催し、ASEANの人材開発を継続的に高めてくださることに對し、日本政府と国民の皆様から心から感謝申し上げます。

最後になりますが、皆さんのラオスでの訪問国活動が素晴らしいものとなるよう、また、第44回「東南アジア青年の船」事業の成功を祈念いたします。

平成29年11月17日
表敬訪問
ラオス政府庁舎

5 インドネシア

● Message by Mr. Gatot S. Dewa Broto青年スポーツ省副大臣からのメッセージ

まず初めに、ようこそインドネシア・ジャカルタへ、心から歓迎いたします。ASEAN各国と日本から来訪した、若き親善大使の皆さんをお招きでき光栄です。皆さんの来訪は私達インドネシア国民にとって特別なことです。なぜなら、この事業は、この地域における青年の友好と相互理解を促進していると認識しているからです。

40年以上にわたり継続されている素晴らしい事業は、この地域の政府の強い結束を証明しています。船内及び訪問国で幅広い活動が行われ、参加青年達は豊かな経験をえています。こういった理由からもこの事業を主導し実現している日本政府に対して、特に感謝を表します。

この事業において大切なことの一つは、正にSSEAYPが、連帯と調和こそが大事だと示している、ということです。あらゆる紛争や論争は、人々が連帯を最優先とすることで、交渉し歩み寄ることが可能となり、解決へと向かっていくでしょう。私もまた、同じ精神を大切にしています。例えば、数か月前にジャカルタで開催されたASEAN及びASEAN+3青少年高級事務レベル会合で、一つ行き詰まった状況がありましたが、私は各国に対して、自国の利益のみを考えるのではなく、全体の大きな利益、そして地域全体の友好と連帯のためを考えるよう働きかけました。

来年インドネシアがアジア競技大会を主催するに当たり、ジョコ・ウィドド大統領は我々に、メダルの数といった結果のみに注目しないよう指導しています。アジ

ア競技大会は、スポーツの祭典であると同時に、社会的・文化的側面も備えています。ですから大統領は、インドネシアがおもてなしの心で参加各国を迎えることでこの大会を成功事例とすべく、関係機関にあらゆる努力を尽くすよう働きかけています。皆さんが今朝、ジャカルタの地に足を踏み入れた時から、このアジア競技大会の精神を感じていただけていたら幸いです。

インドネシアの首都、ジャカルタには数多くの魅力的な場所、そして皆さんに気に入ってもらえるような選択肢があります。歴史的な建物から近代的なショッピングセンター、地元の食やレジャーを楽しめる公園、1,000万の市民が日々都市問題を抱えながらも人生を楽しむ姿を見せてくれることでしょう。ダイナミックで活気のあるこの街を御自身の目で確かめてください。

何よりも、皆さんがホストファミリーと良い時間を過ごすことを希望しています。ホストファミリーは皆さんにとって最も身近な生活共同体となります。ですから、全ての瞬間を大切に、どうぞ心を開いてください。そうすれば、短い滞在ではあるものの、皆さんの将来を力づけることとなるでしょう。

最後になりますが、皆さんの訪問国活動が実りあるものとなりますよう、そして、ジャカルタを楽しんでいただけますよう願います。皆さんが平和でありますように。

平成29年11月24日
歓迎夕食会
国立レジリエンス研究所にて